

アキオ ……。

アサコ でも先生が、市立病院のベッドが空くのを待つか、帝王切開なら……帝王切開が、今取れる選択肢で、母体の安全を考えたら、一番安全だと思うから、そうするのもいいかもしれないって。

アキオ ならそうしたらいい。

アサコ だけど、そしたら。

アキオ 何。

アサコ お義母さんもおばさんも、婦人会の人たちも、帝王切開はダメだって。

アキオ 何で。

アサコ お腹を痛めないと母親にはなれないって。痛いから、愛も生まれるし、母親としての自覚も生まれるって……。

アキオ そんなの迷信だろう？

アサコ わからないんです。

アキオ 迷信だよ。

アサコ だけど、私は、お母さんになるんです。だから、母体の安全なんかを一番に考えちゃ、きつと……。

アキオ、悩んでいたが、思いを吹っ切るようにして、思い切ってアサコの手を握る。

アキオ 中に入ろう。先生の話聞きに行こう。

アサコ ……わからない。

アキオ わからないことあるか。

アサコ いいんですか。

アキオ これはアサコの子どもじゃない。二人の子どもだ。……一緒に行こう。

アサコ いいの。

アキオ 行こう。

二人でドアの中に入っていく。このときはなぜか、悲鳴は聞こえない。

転換になる。